令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人仙台市市民文化事業団
施設名	仙台市青年文化センター（日立システムズホール仙台）
内定額	8,651　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普-01	青少年のためのオーケストラ鑑賞会	令和7年8月26～29日、 11月5～7日	コンサートホール
普-02	仙台フィルと茂木大輔の「味わいつくす！クラシック」第3回　～「幻想交響曲」～	令和7年11月30日	コンサートホール
普-03	第5回日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」	令和7年11月24日	全館
普-04	リラックス・パフォーマンス	令和7年8月24日	交流ホール
普-05	ダンスのいりぐちプログラム	令和7年8月9・10日、 10月18・19日、 令和8年2月14・15日	交流ホール・練習室4
普-06	地元出身のダンサーを起用したワークショップ	令和7年12月13・14日	練習室4
普-07	トライアルシアター「子育てあるある」	令和7年9月6日、10月17日、 11月10日、11月13日、 令和8年1月31日	市内未就学児施設 交流ホール
普-08	こどもの創造性を育むアウトリーチ事業	令和7年9月1日～ 令和8年3月17日	仙台市内幼稚園等

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	12	12	16
	公演事業	5	5	9
	（内、本助成対象事業本数）	5	0	0
	人材養成事業	2	0	
	（内、本助成対象事業本数）	2	0	0
	普及啓発事業	5	7	7
	（内、本助成対象事業本数）	5	7	7
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	693	565	752
	ホール名：コンサートホール　座席数：802	270	258	290
	ホール名：シアターホール　座席数：584	232	119	225
	ホール名：交流ホール　座席数：300	191	188	237
	ホール名：　座席数：			
	ホール名：　座席数：			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	10,486	17,115	21,720
	公演事業	2,199	2,874	17,390
	人材養成事業	406	0	0
	普及啓発事業	7,881	14,241	4,330
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	82,401	126,533	120,095
	その他　内容：記入してください			
	計	92,887	143,648	141,815
開館日数		337	336	336
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））		330	327	325
施設の利用日数		314	308	315
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		95.2%	94.2%	96.9%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	5	5	2,199		4				1	
	共催・提携公演（※2）	47	47	16,786		47					
	貸館公演	200	246	82,401	3	140	23	2	14	12	6
	計	252	298	101,386							
令和6年度	主催公演（※1）	5	5	2,874		5					
	共催・提携公演（※2）	41	41	14,543		41					
	貸館公演	220	282	100,836	4	157	24	3	15	9	8
	計	266	328	118,253							
令和7年度	主催公演（※1）	9	9	21,720	2	6				1	
	共催・提携公演（※2）	14	14	7,144		12		1			1
	貸館公演	181	270	91,231	4	127	12	1	14	10	13
	計	204	293	120,095							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人仙台市市民文化事業団
施設名	仙台市青年文化センター（日立システムズホール仙台）
内定額	8,651　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			
普及啓発事業	①入場者・参加者数 ②観客参加者満足度 ③外部モニターによる事業評価	① 【普-01】参加者数 11,200 名 【普-02】入場者数 560 名 【普-03】入場者数 2,000 名 【普-04】入場者数 300 名 【普-05】参加者数 180 名 【普-06】参加者数 60 名 【普-07】来場者数 300 名 【普-08】参加者数 2500 名、実施施設 40 ヶ所 ②入場者や参加者の満足度高評価 80%以上 ③外部モニターから高評価を得る	① 【普-01】9,253 名 【普-02】443 名 【普-03】3,774 名 【普-04】416 名 【普-05】184 名 【普-06】74 名 【普-07】187 名 【普-08】3,333 名、44 ヶ所 ② 「とても満足」「満足」と答えた入場者・参加者が全事業で 80%を越えた。 ③ いくつかの提案をいただきつつ、全体的に高評価を得ることができた。
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　仙台市青年文化センター（日立システムズホール仙台）

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	おおむね目標値を達成または目標に近い水準を達成することができた。特に普-03「パフォーマンスフェスティバル」や普-04「リラックス・パフォーマンス」は、事前広報に力を入れたことも目標を上回ることにつながったと思う。普-01「オーケストラ鑑賞会」は、インフルエンザによる学年閉鎖により参加できなかった学校もあり、目標値に至らなかった。また普-02「味わいつくす！クラシック」は、事前のプレ講座や解説付きのコンサートであったため入場者の満足度は高かったものの、新たな客層を開拓するには至らず目標の入場者数を達成できなかったが、どの事業においても、アンケートの自由記述欄では内容に対する評価が高く、継続開催を希望する声が多かった。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	利用者アンケートを施設内に設置し、ご意見、ご要望等の情報を収集に努めている。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①市民団体の参画数 ②連携する学校数	①【普-03】公募出演者数 30 団体（申込 80 団体） ②【普-02】参加校数　小学校 100 校、中学校 20 校	①【普-03】 公募出演者数 30 団体（辞退 1 団体） 申込団体数　 61 団体 ②【普-02】参加校数 小学校 99 校 中学校 19 校 （インフルエンザによる学年閉鎖で2校参加できず）

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	普-03「パフォーマンスフェスティバル」は３連休の最終日が公演日ということもあってか、申込が少なかったため、目標値を達成できなかった。しかし、これまで出演できなかった、あるいは初めて申し込んだ団体にも出演の機会が与えられるよう配慮し、より多くの市民団体が参画できるよう努めた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①親子での参加者数（組）	① 【普-05】親子での参加者数 80 組(160 名) 【普-04】親子での参加者数 30 組 (60 名)	① 【普-05】65 組（130 名） 【普-04】67 組（214 名）
②障害をお持ちの方の参加者数（名）	② 【普-04】来場者 60 名(同伴者含まず)	② 【普-04】143 名

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	普-05「ダンスのいりぐち」は、子育て支援関連の情報媒体や地域の未就学児利用施設に広報を強化したが、目標値の達成には至らなかった。参加した親子の満足度は高かったので、今後は広報の展開の仕方や事業内容に合わせた施設の確保などを検討して進めていきたい。普-04「リラックス・パフォーマンス」は、あらゆる属性の方が参加できることを目的としたインクルーシブ事業として実施しているため、来場時や参加時の配慮について、実演者や関係団体と協働しながら実施できたことが、目標値達成につながったと考えている。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	① 創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

・普-03「パフォーマンスフェスティバル」
公募ステージでは、出演が決まった個人・団体が本番に向けての練習のために劇場の追加利用があった。また、職員の中には、本事業を通して事業の企画・運営・広報のスキルを学ぶことができ、他事業に応用することができた。本事業は全館を使用した事業であるため、他課や舞台技術など多くの職員・スタッフが関わっている。そのため、新人の職員は情報共有の仕方や連携を学ぶ良い機会ともなっている。

・普-04「リラックス・パフォーマンス」および普-07「トライアルシアター子育てあるある」
普-04 にアルバイトとして参加した地元の短期大学保育科学生が、普-07 のアルバイトに自ら希望して参加した。はじめは子どもたちと関わる仕事に就くための学びの場として参加していたが、子どもたちの表情や動き、保護者との接し方、事業そのものの面白さに触れてまたぜひ参加させてほしいと希望があり、普-07 では子育てに関わる事業に興味関心のある同期も連れて参加した。後日担当教授からも、両事業に参加して学校生活では得られない学びがあり、将来を考えるうえで良い刺激になったようだと報告があった。これからも地域の大学や高校と連携しながら事業に取り組んでいきたいと考えている。

・普-07「トライアルシアター子育てあるある」
劇場から飛び出してアウトリーチを実施することで、市内各区の子育て支援施設職員や他の仙台市の外郭団体とのつながりが新たにできた。今後も地域の施設や関係機関と連携・協力して、今後も社会課題の解決等に取り組みたい。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	各種助成金の申請を行っているが、安定して獲得できていない。	チラシ配布、新聞、テレビ等を使った広報活動のほか、市で運用しているSNSなどを活用している。
目標(値)（※2）	事業実施にかかる十分な予算獲得を目指す。	事業対象によって、より波及力のある媒体を使い分けて広報していく。
実績(値)	全体の予算調整を行い、予定していた事業を実施した。	対象となる入場者・参加者に合わせた新聞広報やSNS 発信、チラシの配布場所の選定を行い実施した。
団体の自己評価	予算が厳しい事業もあったが、当初の趣旨や目的を変えずに実施することができた。	様々な媒体を利用した広報を計画的に実施することができたことが、入場者や参加者数の増加につながったと考える。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	人事異動による 2～3 年で人員の交代がある。	
目標(値)（※2）	人員の固定は難しいが、事業実施目的を明確にし、ノウハウを安定化することを目指す。	
実績(値)	事業実施にあたり、事業の目的を明確にしながら事業後のアンケート結果や振り返りを共有した。	
団体の自己評価	事業の実施・評価・改善の共有を通して、少ない人材の中でも経験値を高めつつ育成に努めることができたと考えている。	

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
仙台市青年文化センターでは、市民の鑑賞・体験・創造の機会をつくりだし、プロ・アマチュアを問わず地域の文化活動の活性化と、年齢や障がい等のバリアを超えた市民交流機会の創出を目指して事業を展開しいている。令和 7 年度は、これまでに得られた参加者アンケートや関係者の意見を踏まえつつ、時代のニーズに合った事業の立案・実施に努めた。 普-01「オーケストラ鑑賞会」では、仙台フィル常任指揮者の高関健氏からの助言を受け、オーケストラの面白さや音楽を聴く楽しさが感じられるようなプログラムに一新した。仙台市が誇るプロオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団を通して、豊かな芸術体験を届けることができたと考えている。 普-02「味わいつくす！クラシック」では、指揮の茂木大輔氏がオーケストラの曲をわかりやすく解説しながら紐解いていくレクチャー・コンサートとして実施したが、集客に苦戦した。入場された方の満足度は非常に高いので、今後の広報展開を検討することが課題である。 普-03「パフォーマンスフェスティバル」は 5 回目を迎え、市民の表現・創造の機会としての認知度が高まってきている。また、それぞれの団体が互いのパフォーマンスを鑑賞する様子も見られ、実演者、鑑賞者の垣根を越えて交流する場を創出できたことは、劇場のミッションを果たせたと考えている。 普-04「リラックス・パフォーマンス」は今回も多くの申し込みがあったところからも、ニーズのある事業と考えている。あらゆる属性の方に参加いただけるインクルーシブ事業を通して、劇場で働く職員がそのノウハウを蓄積し、今後の劇場のあるべき姿を模索しながら創出していけるよう努めていきたい。 普-05「ダンスのいりぐちプログラム」では、毎回異なる講師を迎えて、親子参加のプログラムと誰でも参加できるプログラムを実施した。どの講師も参加者に合わせて即興性のあるプログラムを展開したこともあり、参加者の満足度は非常に高かった。はじめて参加するもの同士もダンスを通して打ち解け合う様子が見られ、ダンス事業は今後も継続して実施していく必要性を感じた。 普-06「地元出身のダンサーを起用したワークショップ」は、仙台にゆかりのある国内外で活躍するプロのダンサーを講師として招聘し、その活動を市民に紹介するとともに、ワークショップを通して実演家と市民の交流の場を創出することができた。地元出身者が講師となることは、ダンスをより身近に感じるきっかけになったと考えている。 子育て世代を対象に実施した。 普-07「子育てあるある」では、実際の子育て中のエピソードを演劇作品に落とし込むことで、生活の一部が表現作品につながり、鑑賞者が演劇を身近に感じる機会を創出することができた。鑑賞者の多くは子育て世代であったが、今後は子育て世代に限らず幅広い層に興味関心を持っていただけるよう広報していきたい。 普-08 の「子どもの創造性を育むアウトリーチ事業」では、地元で活動する演奏家、実演家の協力を得て、地域と結びついた充実した活動ができた。今後も継続していくことが、誰もがいつでも実演芸術に触れる機会の創出につながり、芸術文化に対する理解を深める一助になると考えている。 今後の課題として、新音楽ホール完成を見据え「楽都仙台」のすそ野拡大のためにも、鑑賞者層の拡大が挙げられる。また、東北唯一の政令指定都市として、東北各地の結節点となれるよう、仙台地域内外の担い手との新たなコミュニティの創出が必要である。そして、劇場に来れば誰もが文化芸術に触れることができ、参加できる機会があるという開かれた劇場を展開していくことが求められている。それらの課題解決のために、地域社会と連携しながらニーズに合った事業を展開する人材の育成にも取り組んでいきたい。

備考